

大瀬崎灯台

五島列島の最西端に立つ人里離れた灯台である。7 世紀から 8 世紀にかけて中国へ渡った使節にとって、この岬は東シナ海を渡る際に最後に日本を見る場所だった。1879 年、ここに最初の西洋式の鉄製灯台が建てられたが、第二次世界大戦中に破損し、現在のコンクリート製灯台は 1971 年に建てられたものだ。2009 年、灯台のランプは太陽光発電に転換され、現在は遠隔操作されている。その光は沖合 22 キロの船まで見える。強い風と波が眼下の 60 メートルの崖を打ちのめし、岩の斜めの地層を浮かび上がらせている。

大瀬山（249.3m）の頂上直下から灯台を見下ろす展望台がある。この高さからは、起伏に富んだ海岸線と島内部のなだらかな山々が一望できる。夕暮れ時には、写真撮影に絶好の展望台となる。また、灯台まで往復 2.4 キロのハイキングコースの出发点でもある。トレイルはツバキの木陰を抜け、灯台のふもとの草原に出る。